

「SEND プログラム シドニー大学スプリングスクール 2015 参加報告書」

京都大学農学部・2年 岡崎史恵

①私がこのプログラムに興味を持ったのは、英語力をあげることのほかに、交換留学をする前に海外の大学や現地の大学生との交流に興味があったからです。実際に大学の授業で海外に行くのは2回目でしたが、前回は学生同士での交流がなかったため、海外の大学生との交流は今回が初となりました。シドニー大学では、バディさんとして私たちと一緒に授業を受けたり、お昼を食べたりした学生はもちろん、日本文化についてのワークショップを通じて、多くの学生と交流することができました。また、日本文化のほかに、日本のアニメやドラマなどについて、英語や日本語を織り交ぜながら会話をしましたが、どの学生も非常に活気があり、特にアニメの話などでは国は違うけれども、共感出来たことでうれしく思いました。また、彼らの中には結構他の国（特にアジア圏）からの留学生や、日本への旅行経験者も多く、色々な話を聞くことができ、私もより海外を訪れたいと思うようになりました。またシドニー大学での日本語のクラスにも参加させて頂きましたが、祖父母や親が日本人という学生や、習い始めて数年といった学生に日本語で話しかけられ、日本では中学から英語を学んでいる割に英語をうまく話せない学生が多い中、積極的な彼らを見習わなければならないと思いました。

②今回の留学で驚いたこととして、オーストラリアは移民を受け入れてきた多民族国家であることは知っていましたが、実際に行く予想よりずっとアジア系の人が多かったということがあげられます。チャイナタウンはもちろん、日本料理店も多く、屋外でも日本人とわかるとこにちは、と声をかけてくれました。また、週に1回の日本人や日本に興味があるオーストラリア人たちとの交流もあるらしく、日本に比べて文化交流の場が大きいと感じ、日本でもそういう機会が多くなればいいと思いました。日常生活では、平日の授業終わりや休日に色々な観光地を訪れました。他の海外に比べて治安もよく、移動手段もそろっていたため、週末にはシドニー郊外のブルーマウンテンを訪れて壮大な風景に感動したり、ワークショップで仲良くなったシドニー大学の学生に Fish Market を案内してもらい、現地の食事を楽しんだりすることで、オーストラリアの乾燥した気候や活気ある市場の様子など身を以て知ることができ、日本との相違点を感じました。

③今回は2週間と短いものでしたが、プログラムの内容は多岐に渡り、充実していました。シドニー大学では、オーストラリアについての英語の授業のほか、異文化交流やビジネス論、リーダー論についての英語講義を受講しました。また、実際のシドニー大学での授業も聴講させて頂き、実際の授業のスピードや授業の雰囲気を感じ取れましたが、私の受けた心理学の授業は日本の授業とよく似ていました。そのほかにも、オーストラリアの気候に対応した農業を学ぶための農場見学やビーチでのライフセービングなどのフィールドワーク、現地の学生に日本文化を紹介するワークショップを行いました。また、農場では、乾燥した気候から干ばつだけを想像していましたが、兎の増殖や牧草地についてなど、実際には他にも様々な問題があることが分かりました。

④実際に今回の留学を終えて、留学したいという思いは大きくなりましたが、直接的な影響はありません。しかし、自分の英語力不足も切実に感じました。英語の授業では先生がゆっくりわかりやすく話してくれますが、友達との会話やフィールドワークでの説明などは非常に聞き取りにくく、聞き返したり、周りの人に助けをもらったりといったことがありました。また普段の日常生活で英語を使う機会がなく、始めの方は自分が言いたいことをうまく表現できず、ジェスチャーを使いながら随分もどかしい思いをしました。今後は会話に関する英語を中心に英語の勉強を頑張りたいと思います。そして、今後の半年間の交換留学では授業を頑張るだけでなく、積極的に現地の学生との交流も楽しみたいと思います。